

アジアの友邦と共に !!
ミャンマー教育推進プロジェクト同志会
団長 衆議院議員西村眞悟

最新情報No, 6

平成19年11月8日発行



ミャンマー（ビルマ）の置物「ふくろう」、しあわせを呼ぶといわれている。

トンテ村及び小学校そして貧乏寺子屋に今後の賛助協力の打ち合わせを現地ヤンゴンとしていた時、今回の事件が起きました。軍事政権が民主化を進め、中国に飲み込まれないようそして、ミャンマーの国民が貧しいながらも、平穏な生活が送れるように祈りを込め、あえて、「ふくろう」の表紙にさせて頂きました。

事務局より

ミャンマーよ、民衆のこと、キン・ニユン第一書記のこと

今朝の産経新聞に、シンガポール支局長の藤本欣也氏が「日本はミャンマーに怒れ」という論説を書いている。その中の、ミャンマー中部のメイクテラにおける戦没日本兵の慰霊の情景と「かつて特別な関係にあった日本も、軍政との間に太いパイプをもたないのが実情だ」という記述に促され、ミャンマーについて思ってきたことを書いておきたい。

先ず、長井健司さんが、九月二七日に射殺された。まことに気の毒で無念であった。後になってみれば、何でも言えるのだが、映像で見る限り、カメラを構えた長井さんのあの位置は、日本のデモに際して、日本の機動隊がデモを規制しているという前提での位置だ。

しかし、現実には、引き金に指をかけて銃を水平に構えてた軍隊がデモを制圧しており、長井さんはその兵隊の直前でなおもカメラを構えていた。実戦行動中の軍隊において、兵士が銃を水平にかまえていれば、まさに「撃つ」ためだということをあらためて肝に銘じておくべきである。

デモ隊が制圧部隊から潮が引くように逃げるなかで、カメラを構えた長井さんが逃げずに取り残されて迫る兵隊の前面に出てしまったようだが、痛恨の場面である。心より、ご冥福を祈る。

なお、テレビで紛争地などの情景が報道され、兵隊や銃を持った人々の姿が放映されるときがある。その時私は、彼らが銃のトリガー（引き金）に指を入れているか入っていないかをみるようにしている。規律のある軍隊は、人差し指を真っ直ぐに伸ばして銃を持っており、平素トリガーに指を入れている。入れるのは命令により現実的に撃つときだけである。これが銃を扱う原則である。反対に、トリガーに指を入れて騒いでいるような集団が放映されることがあるが、これらの集団には規律がないとみてよい。時々、暴発によって死傷者が出ているはずだ。

さて、「日本も今や軍政との間に太いパイプをもたない」という。これははっきり言うが、日本外交の怠慢である。日本外交が戦略眼をもたず、漫然とアメリカさんやスーチー女史になびいていたから、パイプがなくなったのである。つまり、東京の戦略なき怠慢が、ミャンマーを中国側に追いやり、現地でのパイプをなくしたとみてよい。

ミャンマーは心温まる親日国で、軍事政権も一貫して日本に熱いまなざしを向け、援助を期待していた。しかし日本は、「民主化」を要求して援助を打ち切って放置した。そして、援助再開の動きも、その都度アメリカ国務省のご意向に従って封印された。その間、日本は、正真正銘の軍事政権である北朝鮮や天安門事件以降の中国に対しては、巨額の援助を続けていたのである。

なお、一口に「軍事政権」というが、北朝鮮や中国とミャンマーを一緒にできない。前者は民衆の生活よりも独裁者と共産党が核やミサイルを保有し巨大な軍隊を維持するための軍事政権である。これに対して、ミャンマーは、貧しさの中からの国造りのための軍事政権である。丁度日本の明治維新から自由民権運動と国会開設までの政権の雰囲気と思えばいいのではないか。

また、治安は日本より良い。貧しいけれども、市場で働く子供が札束を持って歩いても盗られない。仏教の穏やかな教えと喜捨の精神が生きている。親の子殺しも子の親殺しもない。

日本は、援助を打ち切っていた。それで、ミャンマーの首都ヤンゴンのミンガラドン空港は、長年工事が中断したままであった。管制塔の建物だけが建っているが窓もなく廃墟のようであった。これは、日本の援助で始まった工事を日本が中断したからである。私は平成六年に初めてミャンマーを訪問し平成十七年まで度々訪れたが、その間ずっと管制塔は廃墟のままであった。我が国で言えば、首都の羽田空港の管制塔が廃墟のまま十年以上放置されているのと同じである。

ある時、空港脇の資材置き場に行ったが、日本の資材が山と積んであり、重機や工事車両が整然と並んでいた。管理人もいないのに荒らされた形跡はなく重機も痛んでいなかった。ミャンマー政府は十年以上の間、日本による工事再開をひたすら待っていたのである。なお、ミンガラドン空港は、帝国陸軍の加藤隼戦闘隊の基地であった。

とはいえ、日本政府はミャンマーへの援助を全面的に止めたのではなく、人道援助は遠慮がちに続けていた。しかし、スーチー女史は、日本の人道援助も軍事政権を喜ばすだけだと激しく非難していた。

(だいたい、こういう非難が出来ること自体、ミャンマーの「軍事政権」が、中国や北朝鮮と違い自由があるという証拠である)

そこで十年ほど前に、私は、日本のポリオ生ワクチン援助が如何に行われているかミャンマーの田舎に見に行った。

そこでは、若いお母さんが幼児を抱えて続々と集まってきていた。そして皆笑顔で我が子にワクチンを飲ませていた。その横では、お祭りのように人々が笛や太鼓で踊っていた。本当に、我が国は隣人に喜ばれるよい援助をしているものだと実感した。

しかし、この援助をスーチー女史は非難していたのだ。そして、日本政府は遠慮がちに援助していたのである。

なお、スーチー女史は、ヤンゴン以外のミャンマーを知らない。つまり、彼女はビルマ人の顔をしている英国人である。顔はビルマ、心は英国。実は、イギリスの植民地政策というものは、被支配地の上流階級をこのように作り上げるものなのだ。

私は、ミャンマー軍事政権のキン・ニュン第一書記とは、訪問するたびに会った。会うたびに心が通い合った。

平成六年に初めてキン・ニュン第一書記にあったとき、私は、「ミャンマーの各地を訪れてきた。各地に日本軍将兵の慰霊碑があった。その慰霊碑の世話をしてくれているのは貴国の国民であった。この貴国の大地で、十九万人の日本軍将兵が亡くなった。十九万人の日本人が貴国の土になった。この日本兵を慰霊してくれている貴国に感謝する」と言った。

それから、話が弾んで時間がどんどん過ぎていった。帰国のフライト時間が迫ってきた。同行の寺井さんが、飛行機に乗る時間ですといった。すると、第一書記が、大丈夫、真悟が乗るまで飛行機は飛ばさない、と言った。

私が帰国後、キン・ニュンは、「真悟は軍人だろう」と側近に尋ねたと聞いた。

ある時、キン・ニュンに、「我が国での情報によると、ミャンマーはインド洋のアンダマン海に中国のレーダー基地建設を許可したというが、本当か」と訊いた。

それに対して彼は、「そんなことはない。我々は中国と国境を接している。従って近所付き合いはする。しかし、中国の弟になるようなことは絶対にない」と答えた。

またある時、キン・ニュンとアウンサン・スーチー女史の話になった。その時彼は、次のように言った。

「彼女は、アウンサン将軍の娘だ。だから我々は、妹のように思って接している。しかし、彼女は夫も子供もイギリス人でイギリスに家を持っている。しかし、我々四千万五百万ミャンマー国民は、この大地で生まれこの大地で死ぬんだ」

平成十四年十一月、キン・ニュン第一書記と別れるとき、出口に向かった私をいつ

になく彼が呼び止めた。振り向くと、彼は下を向いて右足でパンと床を踏み、私をみて言った。「真悟、また来てくれ、今度は私が国境地帯を案内する」

これが彼をみた最後になった。その後、彼は政変で失脚し、今は監禁状態にあると聞いている。

そして、今や中国がミャンマーを飲み込み始めている。また、キン・ニユン第一書記が、警護も付けずに礼拝のために裸足であるいた首都のシュエダゴンパゴダには、軍隊が入りサンダル履きで歩き回っている。

現政権は、武装した軍隊を僧侶制圧のためにパゴダに入れた。これはミャンマーでは考えられないことだ。仏教を敵視したことになるからだ。民衆のもっとも素朴な心情を踏みにじった政権に未来はない。

キン・ニユン第一書記は、日本で教育を受けたビルマ独立の英雄アウンサン将軍の部下という意識をもち、日本に熱い期待を持ちながら国家統合という大きな職責の重圧を支えていた。私は、明治維新の大久保利通の雰囲気とはこのようなものだったのではないかと思ったものだ。

日本外交は、国家戦略としてキン・ニユン第一書記の期待に応えるべきであった。それを、自分勝手に独善的なアメリカ国務省のオルブライト長官等のスーチー好きの意向に盲従し、機を失ってしまったのである。まことに、戦略なき外交である。豪勢な大使公邸を造り、キャリア外交官を大使として送り込んでいるだけであった。

さて、ミャンマーの民衆であるが、敬虔な仏教徒で極めて親日的だ。今朝の産経の論説にあるとおりの人々が、今も日本軍戦没者を慰霊してくれている。それ故、ヤンゴン郊外の日本人墓地にはミャンマーの人々に向け、生き残った兵隊達によって次のように書かれてた石がある。

「あなた達は、我々が勝っているときも負けているときも、等しく親切に接してくれた・・・ありがとう・・・」

ところで、キン・ニユン第一書記失脚後の平成十七年に、ミャンマーを訪ねた。多くの仲間と、小学生に筆記用具を渡し、ぼろぼろになったある小学校の校舎を建て替えるためだった。

その時、キン・ニユン時代の閣僚であったエーベル将軍に会った。彼は、現政権の閣僚とも会った方がいいと言ってくれたが、会わなかった。日本に期待していたキン・ニユンを放置しておきながら、彼が失脚したからといって、いそいそと新政権に会う気はしなかった。

なお、我々が訪ねた小学校であるが、今は田園の中の新しい清楚な木造校舎の中で、子供達が笑顔で学んでいる。

追記、22日朝。

このミャンマーに関して、国際社会では現在アメリカと中国が鞘当てをしているようだが、我が国としては、「アセアンに任せろ」という立場に立つべきである。ミャンマーはアセアンの一員であり、アセアンは、今やまとまりのある地域として成熟しつつあるからだ。

そもそもこの地域における「内紛」には、中国の南下（かつては共産ゲリラ、今や経済的攻勢と不道徳の輸出）と華僑の経済支配、そして、アメリカの自由主義の押しつけ、が絡んできたのである。

よって、我が国は、アメリカでもなく中国でもなく、アセアン側に立って「アセアンに任せろ」という立場を明確にするべきである。



(株)大紀元 ホームページ「大紀元日本」
平成19年10月3日の記事を転載

←ミャンマー当局に対する抗議デモが開始3日目、当局は武力で弾圧し、数百人が逮捕された (AFP/AFP/Getty Images)

赤いマスクをしている兵士はいまも国境付近で少数民族とドンパチしている精鋭部隊で、発砲したのはこれらの兵士、ヤンゴン駐留の兵士は発砲しなかったそうです。

(金澤氏 談)

ミャンマー軍事政府の後ろ盾、中共に注意せよ (大紀元日本HPより) 文・林保華

【大紀元日本10月3日】中国共産党がベトナム戦争のときに、中国はベトナムの「後方」だと公言したことは、今でも忘れていない。「後方」とは地理的なものだけを指すのではなく、実際、ベトナムにとって、中国は非常に大きな隣国であり、ベトナムの後ろ盾でもある。中国はベトナムに対して、精神的、物質的、資金、軍事における支援をし続け、ベトナムは万が一敗北した際、中国国境内まで退くこともできる。現在のミャンマーは、まさに当時のベトナムのポジションについているのだ。

ここ数年間、中国はミャンマーにおいて、道路、橋、発電所、製紙工場、トラクター製造工場、造船所などの大量投資を行った。軍備方面においても、ロシア製のミグ戦闘機を除き、戦車、砲艦、戦闘機、ロケット、自走砲を含む主要兵器弾薬はすべて中国からのものだ。

さらに、中国はミャンマーで中国からインド洋へ通じる港の建設を進めており、ミャンマーの港に中東石油からの油送管を繋げる予定でいることから、中国・ミャンマー間の友好的関係は想像がつく。その上、人民元はミャンマー国内で一般通貨として使用できるから、まるで中国の植民地のようだ。良く考えれば、ミャンマーはかつて中国の属国だったこともあり、中国から見れば領土の一部のようなものとも言える。それ故、今回はミャンマーで僧侶らが自由、民主を求め、民生を改善しようと起きた群衆運動に対して、中国政府はミャンマー政府に協力、ないしミャンマー政府に抗議を「処理」し、または弾圧を促すことは、自らの「当然の責務だ」とみなしている。また、中国を統治する共産党は無神論者だから、ミャンマーの僧侶に対する敵対態度もなおさら強くなるのだ。

9月22日に僧侶と民衆が集会しデモ行進をし始めてから、26日に軍事政府が武力弾圧および大量逮捕が行われるまでに、中国共産党政権(中共)はどのような役割を担ったのか。海外メディアの報道によると、中共は関心を示さない低調な態度を保つ、あるいは、ミャンマー軍事政府を支持することを示すと同時に、反体制派組織との連絡関係をも保っているという。関心を示さない低調な態度を保つとは、中共統治への脅威を生じることがないように、中国民衆が刺激させないためだ。また、軍事政府、反体制派の両側と関係を保つとは、中共の一貫した投機的機会主義の本質の表れだ。

米VOAによると、9月25日にブッシュ大統領は国連総会で演説した際、ミャンマー軍事政権に対して新たに厳しい経済制裁を発表し、各国に対しても制裁を促した。しかし、駐国連の中国大使・王光亜氏が、中国も制裁を支持するかについて質問された際、王氏は「目下もっとも重要なことは、ミャンマーを安定情勢に回復させることだ。国連特使ができるだけ早くミャンマーを訪問することだ。我々はミャンマーに対する制裁は地元の情勢にとって、何のためにもならないと考える」との回答だった。

これに対して、国際社会は中国が制裁に反対することに注目するが、中共の思惑は「目下最も重要なことは、ミャンマーが安定な情勢に回復させること」にある。この言葉を理解するには18年を遡って、天安門事件を思い出せば、中共の辞書の中にある「安定」の意味が分かるのだ。

鄧小平はかつて「20万人を殺せば、20年間の安定は保てる」と揚言した。それ以降、中共は「動乱は芽生えた時点で消滅させる」ように実行してきた。現在のミャンマー軍事政府が行っていることも正にそうだ。ミャンマー軍事政府の武力弾圧に対して非難するには、陰で指図している共産党一党専制下の中国政府をもっと追及すべきだ。西側諸国は場当たりの的に処理するのではなく、根本的な解決を図るべきだ。(翻訳・余静)

今回のお知らせは貧乏寺子屋からさせていただきます。

前回6月に寺子屋先生方に合計10万チャットを賛助した際、インフレが進み、浄財が集まらなく子供達の教育がままならぬ状態になって、6月時点10人居た先生も今は8人になっている。との報告を受けました。10月9日金澤さんが来日した際、取り急ぎ寺子屋にUS\$500を拠出しましょう。ということになり実施させて頂きました。なを、この時金澤さんに仮払いとして\$1,000を託しました。巻末会計報告をご覧ください。



↑ジェニイカンタイチャ僧院

この僧院で賛助金の受け渡しが行われました。この周りに校舎があります。はっきり言ってこの寺、ボロです。

感謝状↓



左：テイゼインダ僧正

中央下：お盆のお札は今回拠出した。

67万5千チャット（\$500）

中央：二人が手にしているのが感謝状



2007年10月16日 (翻訳文)

日本からの寄付者への深き感謝の意を表して

ミャンマー国・バゴー管区・バゴー町・マジンワードのジェニイカンタイチャ僧院で善意、親切、関心から僧院で教えている教師への給料に日本の有志からの寄付67万5千チャット（US\$500）を使うことをここに記録し深く敬意を表するものである。

私たちは将来の校舎の予算への参加も期待するものです。

敬具

テイゼインダ僧正

ジェニイカンタイチャ僧院学校

マジンワード、バゴー町

これで6ヶ月間は維持できると、僧侶は大変な喜びで安堵を示していたそうです。

67万5千チャットを6ヶ月で割ると、1ヶ月11万2,500チャットこれを1ドル=1,350チャットの換金レートで割ると\$83そして日本円に換算すると¥9,989です。此の金額を更に先生8名に割り振り日本円換算すると¥1,248が月給に成ります。(10/9レート \$1= ¥120.36)

ミャンマーでは、何故？僧侶が国民の信頼と尊敬を受けているのか！

1. 殺生をしない。2. 他人の伴侶に恋心を抱かないこと。3. 窃盗しない。4. 嘘をつかない。5. 酒を飲まない。6. 自分自身を美しく着飾るものをつけない。7. 娯楽をしない。8. 12時以降の食事の禁止 以上8つが僧侶の守るべき戒律で、実際にそのような生活をしているそうです。(金澤さんミャンマー人スタッフ談)

どこかの国の僧侶も見習って欲しい気がします。



大東亜戦争の時代、1週間ほどこの寺に日本軍が駐留していたそうです。それを聞きつけたイギリス軍が空爆をしたそうです。僧侶が指さす方向に爆弾が落ち、その爆撃で寺の僧侶が爆死したそうです。爆撃されたとき、日本軍は、すでに移動していて、被害に遭ったのはビルマ人だけでした。

テイゼインダ僧正 談

私は仕事柄、この国の少数民族と言われる人たちに接する機会が多く戦争中、日本軍と敵対した部族もありますが敗残兵となった日本兵をイギリス側にいながら助けてくれた数多くの少数民族もいました。「タイに逃げる日本兵の通る道に何でも良いから食料を置いておけ」と指示を出した少数民族の土侯もいました。私のパートナーのルーインもイギリス側についたカレン族ですが親戚が戦争中に叔母さんが看護婦で日本兵の傷病兵を助けています。

実際にこの国で日本兵を助けてくれたのはほとんどがビルマ族と言われてますが少数民族です。兵隊さんは皆、ビルマの人としか言いませんが。こんなことを大きな声で言わない連中が少数民族です。あの貧乏寺の坊さんも少数民族のアラカン族です。私には骨のある人のように見えました。

(金澤さんからのメール抜粋)

↓ バゴウ (ペグー) の慰霊碑 (ペグー、ベグーの両表記がありますが同じ地名です。) 寺の奥まった所にあり、綺麗に掃除されています。 ↓ 鎮魂の二文字が彫られています。



入り口手前の木？草？は短い参道にわざわざ植えたものだそうです。



左後ろの壁面に日本語の碑文があります。碑文全文下記に表記

第五十五師団ベグー [バゴウ] 慰霊碑の建立

この慰霊碑は1956年(昭和31年)元日本軍軍人で徳島県人がビルマ(ミャンマー)慰霊巡拝に訪れた際、一念発起し亡き戦友(通称楯兵団、第五十五師団戦没者16, 311柱)を偲び四国四県を中心とし、全国に散在する占有の篤志により1979年(昭和54年)ビルマ(ミャンマー)の古都であり、又寝釈迦仏が祀られる聖地ベグー市チェニガン寺院内に建立、1997年同寺院隣地に移転したものでございます。

改めて、ミャンマー国民の皆様には深甚なる感謝を申しますと共に亡き戦友の冥福を祈念するものでございます。

1997年3月吉日

元第五十五師団ミャンマー現地慰霊碑建設委員会

(碑文資料提供 映像教育研究会 稲川 和男 氏)

バゴー（ペグー）はバゴー管区の州都でヤンゴンから70 kmバスで約2時間の所にあります。バゴーの貧乏寺子屋の近くにこれらの名所が散在しています。



↑ シュエターリャウン寝仏はバゴーの象徴で全長55 m

↓ 新しく造られた寝仏、同じ場所にある



↑ シュエターリャウン寝仏の足裏

↓ バゴー町から4 km離れたヤンゴンよりにある4面仏像、チャイプーン・パヤー



↓ 仏塔 シュエモード・バヤーを望む



↓ 正面から見る





バゴのメインストリート
三輪の乗り合いバスが4台



懐かしいボンネットタイプのタンクローリー車
原油高で交通費を一挙5倍に引き上げた事が、
デモ原因の一因となりました。



幹線道路：車道中央を自転車のがんびり走行
日本では考えられない情景です。



左端：昭和35年～40年代全盛を誇った
オート三輪“マツダK360”が今も健在



右端にサイカー、ゆったりした時間の流れを
感じます。



バゴ、ヤンゴン間を結ぶ立派な道路
空がきれい

以上貧乏僧院、バゴ（ペグー）の写真は金澤さんの会社のパートナー
ルーインさんが平成19年10月16日に撮影したものです。

トンテ小学校その後のお話 !!



トンテ小学校です。よく見ると屋根の塗装が剥がれ始めてます。ヤンゴンの金澤さんへボロボロに成らない内、塗り直しを検討しましょう。と打診したところ、村長が大変乗り気で、我々で出来るから業者に出さないで下さい。と早々、見積書を提出してきましたと、金澤さんからメールが送信されました。

下記の見積もりで人夫代が4名で4万チャット予備日を除いて6日で仕上げるとしても、1人単価 約1,670チャット
(10/9レート\$1=1,350チャット=¥120.36)
換算すると、日本円で日当が約148円
発注する頃は、乾季になり始めていると思いますので4日位で仕上げしてほしいものです。それでも日当が日本円で約229円

トンテ学校・屋根と国旗掲揚ポールのペンキ塗り替え (9月13日村長提出見積書)

ペンキ	: 10ガロン(約45リットル)	60,000チャット
刷毛	: 6個	12,000チャット
錆落とし用金属製刷毛	: 6個	6,000チャット
人夫代	: 4名×7日間	40,000チャット

合計 118,000チャット(約US\$89)

7日間と言うのは雨季の現在を目安にした日数です。乾期でしたらもう少し短くなると思います。村長曰く「村人に仕事を出せるので嬉しい」それにしても随分安い日当です。ヤンゴンは土方が2千~3千チャット大工の日当が4千チャットですので、ヤンゴンよりかなり安いです。



9月13日撮影：雨季時は、校庭に水が溜まり池のようになってます。



←問：植木鉢はなんですか？

答：先生方が育てている植物です。

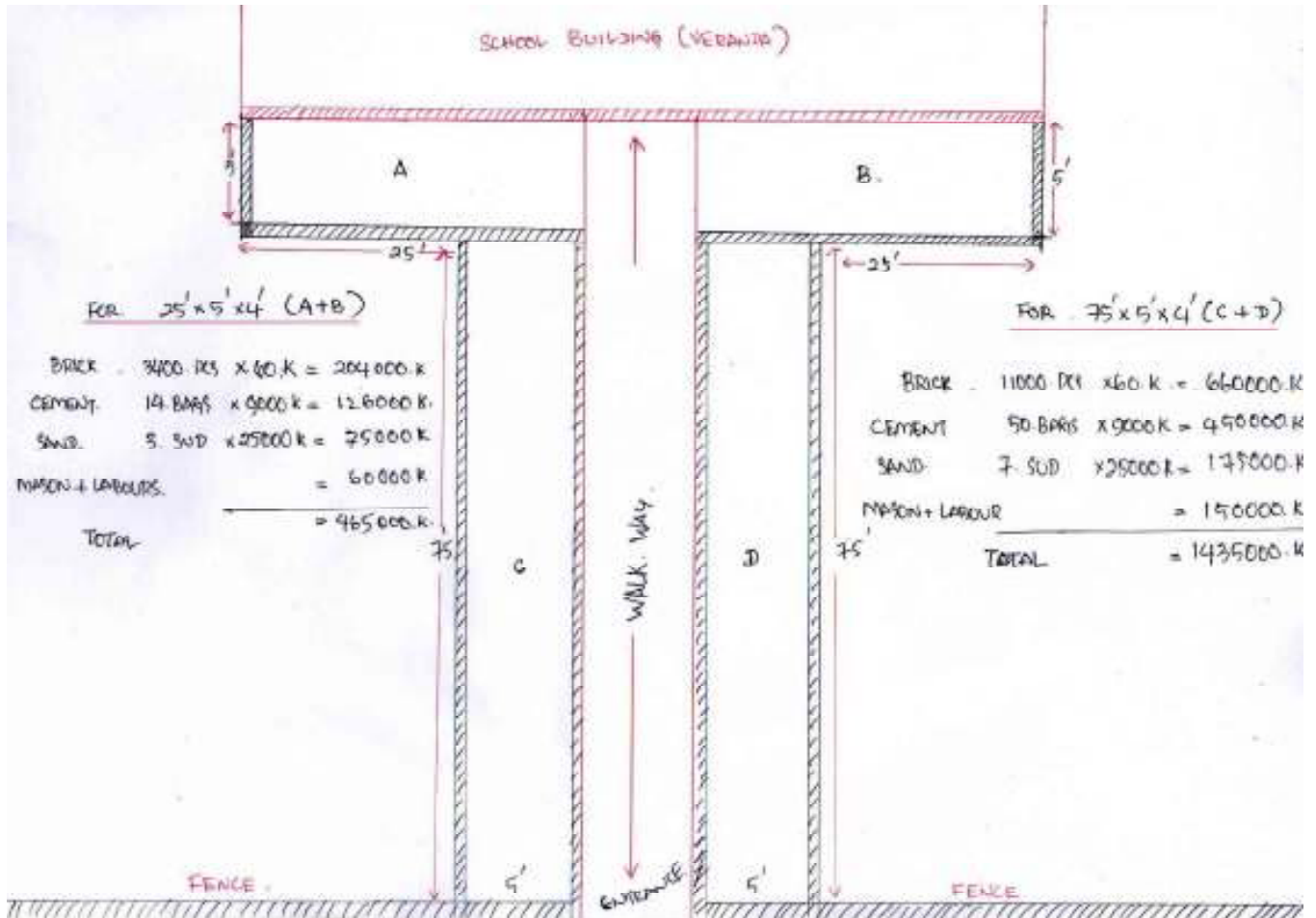
問：校庭に生えている草と変わらないと思えますが？

答：金澤氏曰く、私にもそう見えます。

それなら花壇を造って世話したら？とメール送信したところ校長先生も村長も大変よろこび、是非お願いします。校長先生曰く「花壇の世話は生徒と一緒にしたい。」「もし花壇の世話に基金をお願いできるなら、学校への寄附と言うことで頂ければ有難いのですが。」村長曰く「大変ありがたい、こちらの工事も、村人にさせたいので、仕様と見積書を出させて下さい。」という訳で村長提出の見積書(次頁)

↓ 村長提出の見積書

学校の建物



学校への入り口、中央は通路

A & B の場合 465,000 チャット (約 \$ 345)
 C & D の場合 1,435,000 チャット (約 \$ 1,063)
 ABCD 合計 1,900,000 チャット (約 \$ 1,408)

9月12日現在レート \$ 1 = 1,350 チャット

以下は9月5日から10月31日までのメール通信の抜粋です。

- 校長先生が言っていた「花壇の世話は生徒と一緒にしたい。」は良いですね。子供達の理科の勉強になりますね。「もし花壇の世話に基金をお願いできるなら、学校への寄附と言うことで頂ければ有難いのですが。」の花壇基金の金額は？
- 1ヶ月3万チャット位 (\$ 23) で如何でしょうか？
先生方は金額を言わないので、これは私が弊社スタッフに尋ねて彼らから出てきた数字です。因みに、現在トンテの学校では、先生達が別な所で野菜を植えて学校の基金というか足りない部分野菜を売って補ってます。本日、ルーインがトンテに行ってます。明日には写真を送れると思います。
- とりあえず期間は1年としたいのですが？
- 了解しました。\$ 23 x 12 = \$ 276の年額になります。
- 金澤氏からの問：花壇はABCD全部造るのですか？個人的にはA & Bで充分かと思えます。
- 当初欲張らず金澤さんのA & Bにしましょう。
- 私もその方が良いと思えます。花壇の手入れをちゃんとするか見れます。
- 花壇の造成期間は10日間※雨季でもこの日数で出来ると言ってます。
- 了解しました。花壇の案件、基金の案件は、時間が掛かると思えます。次回お知らせで賛助金協力をお願いするつもりですが、日本の協力者の理解に成り立っていることをお伝え下さい。ペンキ塗りの件は、発注して下さい。
- 了解しました。
- 10/31ペンキ塗りは11月中旬に始める予定だそうです。ヤンゴンではここ何日か季節はずれの雨が降ってます。

ヤンゴン市内のフェリー乗り場（ストランドジェットイ）から対岸のダラを出発トンテの小学校までジープで約40分 道中点描です。



出発時は綺麗な舗装で幅も広い



船着き場を出て直ぐの時計台、ロータリーは植民地時代の宗主国イギリスの名残り



左端が村落の家々、手前が村道



トンテにある小さなパゴタ、ミャンマーで良く見る風景です。



トンテの小学校の近くです。舗装も悪く道幅も狭くなりました。それでも舗装してあるので大変良し



学校帰りの小学生、ミャンマーでは小学校の義務化が進んでますが、貧しく月謝が払えない家庭が数多くあります。月謝は日本円にして¥50位ですが、他に制服、文房具や色々と副材費が掛かるのも原因の一つと言われてます。

ミャンマー教育推進プロジェクト同志会の皆様へ

西村 眞悟団長の時事通信にあります。日本政府の外交政策の独自性のなさと、軍事政権の失望を買いましたが、先にご報告したようミャンマー教育省の担当官は非常に親日でした。軍事政権が民主化を進めるにもアセアンの力、真の力になるのは日本だと思いますが、残念ながら日本政府に期待は持てません。西村代議士が総理大臣になれば別の話ですが・・・官民の官がはずれ民だけの小さな小さな教育支援ですけれど、現地ミャンマーの人々の期待とご縁の大切さから教育支援を継続させて戴ければ大変有難いと思います。